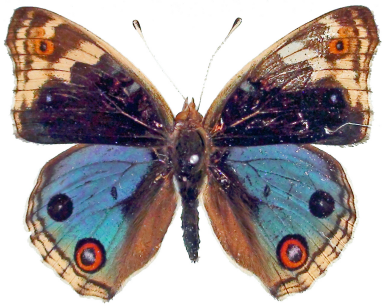
チョウとの出会い：アオタテハモドキ　931228, 90405

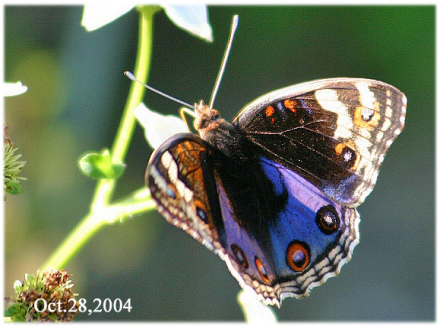
Sep. 5, 1993：石垣島川平

あたり一面おびただしい数の蝶が群れ飛んでいる中で、とりわけ敏捷に飛び交っているのがタテハチョウの仲間だ。メスアカムラサキとリュウキュウムラサキ、それに小型ではあるがコバルトブルーの金属光沢がとてもきれいなアオタテハモドキが参加している。いずれのタテハチョウ属も花の蜜を求めて急旋回しては白いセンダングサ花上に静止するが、マダラチョウのようにひとつの花上でゆっくりと味わうような落ち着きはまったくない。アオタテハモドキは少し開けた陽当たりのいい肌地に直接羽を広げて止まるのが特に好きとみえる。美しいコバルトブルーの金属光沢を見せびらかしたいのであればもっとゆっくりと見せてくれればいいのに、次々と場所をかえてあっちこっちと飛び回る。センダングサの隙間に赤土が剥き出しの荒れた畑地に踏込むと場所によっては足首まではまり込んでしまう柔らかい部分もあるが、タテハチョウ属との追っかけっこはとても楽しい。


Sep.5,1993 石垣島川平　初採集

Oct. 28, 2004：沖縄名護市

すでに 16 時近いため、日当たりのいい場所を探して進むと、昔は荒地だった場所に何軒かの民家が建ち、名護城側の林縁に沿って幸地川が流れ、その周辺に適度な草原が広がる場所に出る。幸いここらに咲くセンダングサを中心にアオタテハモドキやタテハモドキ、カバマダラ、ヒメアカタテハなどが残りすくない時間帯を惜しんで遊んでいる。奥の林周辺にはツマムラサキマダラの雌雄が飛び交う。さっそくカメラを準備していいアングルをと、チョウの気持ちになってその動きについてゆく。なかでもアオタテハモドキ♂のムラサキがかったブルーが太陽光線を受けてひときわ美しく映える個体に魅せられる。一方、コバルトブルーに輝く石垣に静止する個体に対してもシャッターを切る。いずれも和歌山の石垣さんが撮影記録しておられるメスの場合に出る赤い紋が前翅にくっきりと見えるタイプだが、本部半島には案外普通タイプなのかも知れない。



Copyright© 1993- Soft House JUMP. All rights reserved.